

# IRIDeS

## Newsletter

International Research  
Institute of Disaster Science  
Tohoku University

夏号  
SUMMER  
2023  
vol.03

TOHOKU UNIVERSITY  
IRIDeS  
東北大学災害科学国際研究所



### Topics

**Feature** 世界防災フォーラム 2023 に参加・協力

**Meeting** 国連ハイレベル会議・仙台防災枠組中間評価会に参加

**Survey** 三陸海岸の津波石をプリマス大学の研究者と共同調査

**Visit** G7 科学技術大臣らが IRIDeS を訪問

**Learning** 仙台の外国人留学生・市民が防災について学ぶ

# ご挨拶



東北大学 災害科学国際研究所  
(IRIDeS)  
所長 栗山 進一

今年度、第3代東北大学災害科学国際研究所 (IRIDeS) 所長に就任しました。IRIDeSは、発足以来、東日本大震災の教訓から学び、被災地の復興を支援するために、工学、理学、人文・社会科学、医学、防災実践の研究者が集まり、分野の枠を超えて学際的に協力してまいりました。IRIDeSの使命は、世界が必要とする災害科学の知の創造と蓄積に貢献し、得られた知見をすみやかに発信してローカルかつグローバルに実践していくことです。研究所設立11年目に入った今、これまでに築いた成果をしっかりと継承しつつ、本研究所の最重要目標「東日本大震災をはじめとする、災害で被災された方々、また将来被災しうる方々の助けとなること」を見据え、長期展望を持って災害科学を深化させてまいります。

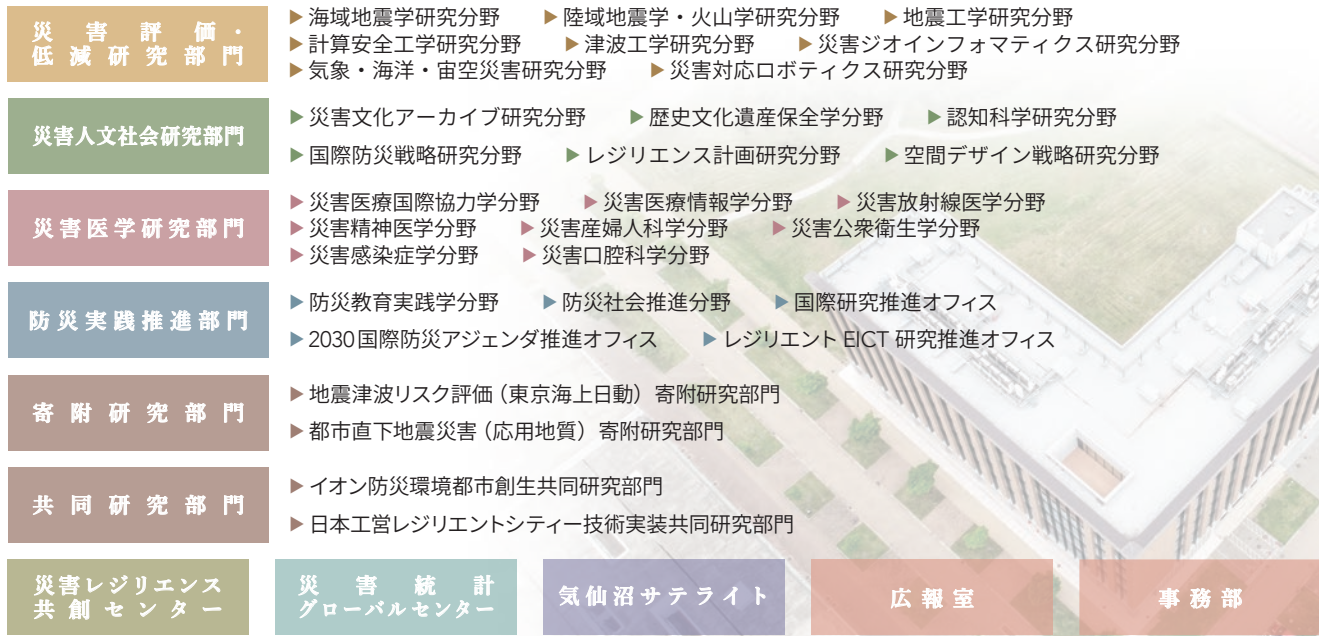
東日本大震災がもたらした被災者の方々への影響は続いており、被災地の課題に引き続き取り組んでまいります。また今後、一人ひとりが実際に防災行動を取られるよう、働きかけていきたいと考えています。防災に無関心である方々や、その必要性を認識されつつもまだ実践されていない

方々への働きかけを含め、災害に対する備えや対応を格段に進めることを目指してまいります。「ソナエル、ニゲル、タチナオル」をキーワードに、拡がりのある防災運動に結びつけていきたいと考えています。

国連加盟国は2030年まで、世界の防災指針「仙台防災枠組2015-2030」に沿って防災を推進しています。仙台防災枠組は、2015年第3回国連防災世界会議で策定され、IRIDeSも協力・関与いたしました。今年2023年は、仙台防災枠組の「折り返し地点」にあたります。5月17～19日には、ニューヨーク国連本部で各国首脳級が参加するハイレベル会合が開かれ、仙台防災枠組の進捗状況を確認する中間評価が行われましたが、同会合には私を含むIRIDeSの関係教員が日本政府代表団の一員として出席し、議論に加わりました。それに先立ち今年3月、IRIDeSは、世界防災フォーラム2023を通じた同中間評価への提言提出にも参加・協力しています。今後もIRIDeSは、活発な研究・実践活動を通じて、仙台防災枠組の目標達成にいっそう尽力していきたいと思っております。

IRIDeSは社会の重要課題を見据え、東北の復興と国内外の防災へ引き続き取り組んでまいります。今後とも皆様のご支援・ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

## IRIDeSの組織体制



## CONTENTS

1 ▶ ご挨拶	4 ▶ 訪問 G7科学技術大臣らがIRIDeSを訪問
1 ▶ IRIDeSの組織体制	4 ▶ 学び 仙台の外国人留学生・市民が防災について学ぶ
2 ▶ 特集 世界防災フォーラム2023に参加・協力	5 ▶ 教職員紹介
3 ▶ 会議 国連ハイレベル会議・仙台防災枠組中間評価会に参加	5 ▶ ご案内・お知らせ
3 ▶ 調査 三陸海岸の津波石をプリマス大学の研究者と共同調査	



# 世界防災フォーラム2023に参加・協力



世界防災フォーラムは、スイスの防災ダボス会議と連携し、防災の具体的解決策を創出する日本発の市民参加型国際防災フォーラムです。2017年の第1回開催以来、国内外から産・官・学・民の多様なステークホルダーがこのフォーラムの場に集結し、東日本大震災の教訓を世界へ発信しながら、世界の防災指針「仙台防災枠組2015-2030」を推進してきました。世界防災フォーラムは東北大学で創設されたもので、IRIDeSは、第1回世界防災フォーラム以来、主催者の中心的位置を占め、フォーラムを全面的に支援してきました。

2023年3月10～12日、第3回となる世界防災フォーラムが仙台国際センターにて開催され、30の本体会議セッションをはじめとする多くの会合が開かれました。世界防災賞が岩手県普代村の元村長である故・和村幸得氏および米国第30代大統領・故ジョン・カルバン・クーリッジ氏に贈呈されたほか、気候変動への対応に関するセッションやトルコ・シリア地震特別セッションも開催され、閉会式では、仙台防災枠組の中間評価を実施する国連防災機関の代表へ世界防災フォーラムからの提言が手渡されました。参加者は、40の国・地域から5,412名（オンサイト・オンライン）となりました。

第3回世界防災フォーラムでは、IRIDeS所長が世界防災フォーラム国内実行委員長を務め、IRIDeSとして多くのセッションを主催しました。第4回世界防災フォーラムは、2025年3月に予定されています。



## 国連ハイレベル会議・ 仙台防災枠組中間評価会に参加

第3回国連防災世界会議が2015年に開催され、世界の防災指針「仙台防災枠組2015-2030」が策定されました。国連加盟国は2030年まで、この枠組に沿って4つの優先行動と7つのグローバル目標を達成すべく防災を推進しており、東北大学およびIRIDeSも同枠組の推進に協力してきました。

今年は、仙台防災枠組の目標達成のために定められた期間の約半分が経過した年、つまり仙台防災枠組の「折り返し地点」にあたります。これを受けて5月17～19日、ニューヨーク国連本部で各国首脳級が参加するハイレベル会議が開かれ、仙台防災枠組の前半期の進捗状況を確認する中間評価が行われました。これまでに何ができ、何ができていないかを振り返ることで、枠組の後半期に生かす目的です。IRIDeSからは、栗山進一所長、小野裕一副所長をはじめとする関係教員が日本政府代表団の一員として出席し、議論に加わりました。

ハイレベル会議では、仙台防災枠組は発展途上国を含む各国に浸透した反面、気候変動、COVID-19、ウクライナ危機などの影響で、目標達成状況は想定を大きく下回っていることが確認されました。栗山所長は、「災害被害を把握するための統計値データベースの作成に当たり、最初から現場レベルにそぐわない精緻過ぎるものを作るのは避けるべきことが確認されました。また、今回のハイレベル会議政治宣言で、枠組の目標達成にあたり、残る7年、学術の参加が重要になると指摘されたことを受け、IRIDeSとしても尽力していきたいと思います」と述べました。



会議の様子

## 三陸海岸の津波石を プリマス大学の研究者と共同調査



調査の様子

津波石は津波で運搬された岩のかたまりです。津波石がどのように運ばれたかを調べることで、津波の挙動やエネルギーを知ることができます。

2023年4月17～19日、IRIDeSの菅原大助准教授（津波工学）、石澤堯史助教（地質学）らは、イギリス・プリマス大学のアリソン・レイビー教授ら海岸工学や堆積学を専門とする研究者3名と、三陸海岸の津波石を共同調査しました。

日英共同調査チームは、岩手県下閉伊郡田野畑村から宮城県気仙沼市唐桑町までの三陸海岸において、津波石が現在でも観察できる計12箇所でフィールドワークを行いました。各地点において、菅原准教授らはプリマス大学の研究者らに、2011年東北沖津波およびそれ以前の津波の高さや浸水範囲に関し、IRIDeSで整備している津波痕跡データベースを用いて解説しました。その後、日英の研究者らは過去の津波によって運ばれた津波石を現地で観察し、その運搬過程について議論しました。プリマス大学の研究者らは、ドローンやレーザー光を用いた測距技術等、最新の観測機器を用い、津波石の形状や体積を高精度で測定しました。

今回の日英研究チームによる現地調査・計測結果から、津波石と、津波石を運搬した津波の関係がより詳細に判明することが期待されます。IRIDeSとプリマス大学の研究者らは、今後も三陸海岸での津波石の調査を継続することとしています。



## G7 科学技術大臣らが IRIDeS を訪問

2023年5月12～14日、仙台市にてG7仙台科学技術大臣会合が開催され、地球規模課題の解決に向けた科学技術協力の強化等について議論が行われました。うち5月12日は秋保にてIRIDeSとその研究成果を紹介する展示と説明が行われ、5月13日は、同会合エクスカージョンの一環として、高市早苗内閣府特命担当大臣、G7 諸国の科学技術大臣をはじめとする関係者がIRIDeSを訪問しました。

当日は、IRIDeS棟にて東北大学およびIRIDeSの多くの教職員が関係者を出迎えました。同訪問におい

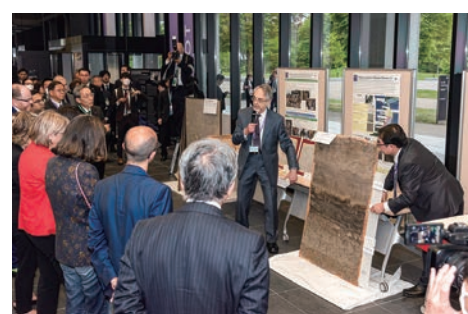
ては、関係者に向けて東北大学の災害科学やIRIDeSの概要が説明されたほか、次世代防災システム、災害対応ロボット、歴史分野における災害研究などが紹介され、IRIDeSの研究者とG7の国々に拠点を置く研究者・組織との連携事例をまとめた冊子も配布されました。

訪問の最後に、栗山進一所長は、「IRIDeSは東日本大震災の被災地の復興に貢献し続けているとともに、同震災をはじめとする災害に関する知見やデータを収集してきましたが、今後も知見を共有しあって世界の災害リスクを共に減らしていきましょう」と締めくくりました。訪問に参加した関係者からは、「非常にわかりやすかった」「興味深かった」とのコメントがありました。

今回の訪問を機に、G7諸国において、東日本大震災の教訓から生まれた科学とその実践への興味と理解が深化し、災害科学分野における国際協力が一層進むことが期待されます。



記念撮影



歴史分野における災害研究紹介の様子

## 仙台の外国人留学生・市民が防災について学ぶ

2023年6月17日、仙台にて、IRIDeSと仙台観光国際協会（SenTIA）は、「Be prepared! Let's think about BOSAI」（備えよう！防災について考えよう）と題した多文化防災ワークショップを共同主催しました。これは、仙台で暮らす外国人留学生・市民が防災を楽しく学ぶためのイベントです。

午前の部は、仙台国際センターの研修室で行われました。参加者は英語、中国語、日本語のグループに分かれ、「家にいるときに大きな地震が起きました。はじめに何をすればよい？」といった防災クイズの答えを一緒に考えました。また、「災害に備えて用意したほうがよいもの」等のトピックを、グループごとに話し合って発表しました。



参加者に防災バッグの中身を見せるゲルスタ助教とマリ准教授

ワークショップでは、IRIDeSのゲルスタ ユリア助教が仙台のさまざまな自然災害などに関する講義を行い、マリ エリザベス准教授はワークショップが円滑に進むように支援しました。午後の部は、参加者は震災遺構荒浜小学校の英語通訳つき語り部ツアーに参加しました。

ワークショップには、アメリカ、インドネシア、中国、パキスタンなど計15か国から来日した留学生や市民ら計25名が参加し、IRIDeSとSenTIA関係者の連携で和やかに行われました。参加者からは、「知らなかったことを学びました。来て良かった」などの感想が寄せられました。



震災遺構荒浜小学校にて



# 教職員紹介

IRIDeSで活躍中の教職員をご紹介します



かまた けんいち  
鎌田健一 特任教授  
KAMATA Kenichi

地震津波リスク評価(東京海上日動)  
寄附研究部門

この4月から2年間の予定で東京海上日動火災保険株式会社からIRIDeSへ出向し、防災関連国際規格(ISO)策定や防災教育推進を担当しています。ほかにも「仙台市×東北大学スーパーシティ構想推進協議会」や復興支援に携わっています。仙台市出身で、30年ぶりに故郷に戻ってきました。趣味はランペット演奏とバードウォッチングです。



マス エリック 准教授  
MAS Erick

災害ジオインフォマティクス研究分野

避難シミュレーションのリアルタイム対応システムの開発に携わり、地理空間データ分析やモデリング技術を通じて、最適な避難計画を導き出す研究等を進めています。IRIDeSで複数の学際研究にも参加してきました。これからも人の命を救う災害科学を追求していきます。ペルーのリマ出身で、趣味は日帰り家族旅行とPython言語です。



武田百合子 学術研究員(限定)  
TAKEDA Yuriko

災害レジリエンス共創センター

災害レジリエンス共創研究関連の事務、GIS窓口を担当し、学内外研究者の連携支援を行っています。仙台市出身、週末は映画・漫画・ドラマの世界にひたっています。情熱を持って日夜研究に邁進し、よりよい社会の実現を目指すIRIDeSの皆さんと、力を合わせてがんばっていきたく思います。どうぞよろしくお願いたします。

## ご案内・お知らせ

IRIDeSの一般公開イベントは、感染症等の状況に対応しながら、オンラインや対面で実施しています。最新状況はウェブサイトをご確認ください。

HP <https://irides.tohoku.ac.jp>



さいがい犬 イリ



## ACCESS

### 東北大学災害科学国際研究所

〒980-8572 仙台市青葉区荒巻字青葉468-1

仙台市地下鉄東西線「青葉山駅」から徒歩3分

### IRIDeS広報室

お問い合わせ

電話 ▶ 022-752-2049

メール ▶ [koho-office@irides.tohoku.ac.jp](mailto:koho-office@irides.tohoku.ac.jp)

## 編集後記

IRIDeSは新体制のもと、長期展望を持って災害科学の深化に取り組んでいます。今号は国際関係の話題が主となりました。次号は、IRIDeSの関東大震災シンポジウムや「障がい者と災害」連続セミナーなどについてご報告予定です。

## 表紙写真について

- 左上 ▶ 三陸海岸における津波石調査の様子
- 右上 ▶ G7科学技術大臣らがIRIDeSを訪問
- 下 ▶ 災害科学国際研究所 教職員 集合写真 (2023年4月10日撮影)



IRIDeS Newsletter 2023 夏号 vol.3 [2023年7月発行]

発行 東北大学災害科学国際研究所

取材・文章 主担当 中鉢奈津子

編集 広報室(中鉢奈津子・鈴木通江・福島愛子・小森光) デザイン/印刷 有限会社 明倫社